



平成17年
シカの被害で荒れていた奥多摩の山



平成18年



森林整備により、豊かな森へ回復しています



平成25年



◆今後の取組みについて

奥多摩・武蔵野の森は森林整備による取組により、森林の復旧はかなり進みました。また、平成25年の多摩地域におけるニホンシカの個体数は約2,250頭であり、狩猟による捕獲等個体数管理によって平成14年に比べ少なくなっています。

しかし、柵外では未だ多数のシカが確認されています。シカ柵が損傷すると、シカが柵内に侵入し被害が見られることから、今後もシカの生育状況を把握し、シカ柵を適正に保てるよう引き続き管理をしていきます。



平成26年5月 撮影

「奥多摩・武蔵野の森」の協定

3者による第3期森林整備協定
H31.4.1~R4.3.31
(第1期協定期間 H17.3.14~H26.3.31)
(第2期協定期間 H26.4.1~H31.3.31)



「奥多摩・武蔵野の森」の場所



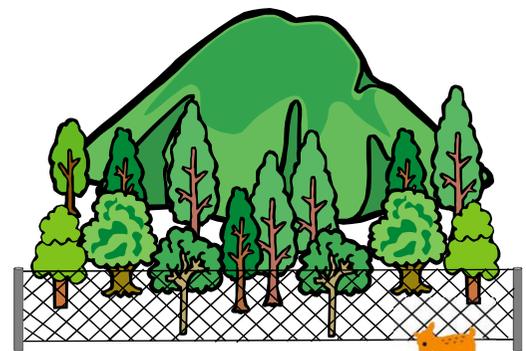
このリーフレットの紙は、東京の木25%・古紙75%を使用しています。

東京都多摩地区の間伐材を利用する「東京の木」を使用することは、地産地消が実現し社会貢献活動の身近な第一歩となります。

奥多摩・武蔵野の森



みんなの大切な森を守るために



発行：武蔵野市、奥多摩町
編集：奥多摩・武蔵野の森運営委員会
発行日：平成27年7月（令和元年一部修正）

問い合わせ先：（公財）東京都農林水産振興財団
TEL：042-528-0641
FAX：042-528-0619

◆水源地でのシカによる被害

東京都の多摩地域において平成5年に約400頭だったニホンジカの個体数は、平成14年には約2,500頭と約6.3倍にまで増えました。*1急激に増えたことに伴い、森林への被害も多く発生しました。

私たち東京都民の水源地でもある奥多摩町の森林においても、樹皮がむかれて生育不良になり枯れてしまったり、伐採跡地に植えた苗木が食べられ、さらには、地表面にある草本類も食べつくされてしまい、植物が無い裸山となってしまったところもあります。

このようなところでは、降雨の度に土砂が流れ出るなどの被害が発生し、平成16年には、大雨により大量の土砂が流出し、奥多摩町の水道施設に大きな被害がありました。

このように、シカによる被害で東京の水源地は危機的状況となっていました。

※1 平成26年度東京都シカ保護管理計画年間実施計画「シカの推定生息数等の推移」より



ニホンジカ



シカにより皮をむかれた木



地表面の草が無く、降雨で荒れた山

◆都市部との連携

森林には、水質の浄化や土砂流出の防止など、様々な機能があります。

奥多摩の森林は、都市住民のレクリエーションの場や都市部の貴重な水源地として、とても重要な役割を担っています。都市部に住む私たちは、森の恵みを受けており、森を守ることは、私たちの生活を守ることに繋がります。

このような考えのもと、都市部にある武蔵野市からの提案により、自然環境や多摩川の水源地を守るため、武蔵野市、奥多摩町、（公財）東京都農林水産振興財団の三者で協定を結び、奥多摩町の逆川地区にある被害地の一部を整備していくことになりました。



奥多摩・武蔵野の森
3.35ha

◆奥多摩・武蔵野の森における取組

シカによる被害により裸山となった奥多摩・武蔵野の森では、まず崩れた山の斜面を安定させるために丸太筋工*2を設置しました。斜面を安定させた後、豊かな森林づくりとして広葉樹を植栽し、シカの被害から植栽木を保護するために「単木ネット」と「シカ進入防止柵」を設置しました。シカ進入防止柵には、地表面に草を生やし植生回復を促す効果もあります。

その後、現場内の見回り管理、植栽・保育等森林整備も実施し、植生調査などを行ってきました。

※2 丸太筋工…山の斜面に対して直角に丸太を設置し、山の斜面を安定させる工法。



シカ進入防止柵と丸太筋工



単木ネット

◆奥多摩・武蔵野の森の回復

これまでの森林整備の結果、シカ柵等の効果により、草木の無い裸山だったところは草が繁茂し、地表面が安定したことで土砂の流出が抑制されました。更には、植栽木も順調に成長し、当初予想した以上に植生が回復し、写真のように緑豊かな森へと生まれ変わりました。



平成17年



平成18年



平成25年